

私たちのアンケート調査では、眼科初診患者様の約10%が涙目を気にしていらっしゃいます。

特に高齢者の間では、涙目の訴えは多く、視力低下の訴えに続いて第2位の訴え率です。

涙目の原因は様々です。原因の第1位は慢性アレルギー性結膜炎ですが、治療が長引いて難しいのは、涙が日から鼻に流れる通り道（涙道）に狭窄や炎症などの問題がある場合です。

涙目の初診患者様の中で、このような難しいケースは約3割程度ですが、この3割の方々はすぐに治療効果が出るものではなく、また治療後の再発もあるため、結局、通院患者様のなかで涙道に問題が

ある患者様の数がどんどん増えていく傾向があります。更に、涙目患者様の中には、眼科に通院していても、メヤニや目の縁のただれに対して対症療法的に点眼薬が処方されているだけで、涙道に問題があること自体が気づかれていないケースも多く、潜在的な涙道疾患

判断の仕方が意外に難しく、正確な診断にはレントゲン検査が必要となります。しかし、レントゲン検査は、総合病院の眼科か、個人の眼科医院でも涙目を専門的に診療している一部の病院でしか受けることが出来ないと

いう制約があります。カナダやドイツでは、10年視鏡を用いて涙道の診察をする試みを始めており、すでに多くの成果を上げています。この方法が一般化されれば、レントゲン設備がなくても涙道の正確な診断が出来るようになり、多くの涙目患者様の問題解決への糸口となるに違いありません。

涙目のお話

鈴木眼科クリニック

院長 鈴木 亨

亨

若松区東一島4-7-1 info@suzuki-eye.com

患者様の数は相当なものであるはずですが、涙道の状態を調べるには、まず涙管通水テストという簡単な方法で検査をします。この方法は痛くないのが普通で、どこの眼科でも手軽に検査を受けることが出来ますが、この方法での検査結果は

判断の仕方が意外に難しく、正確な診断にはレントゲン検査が必要となります。しかし、レントゲン検査は、総合病院の眼科か、個人の眼科医院でも涙目を専門的に診療している一部の病院でしか受けることが出来ないと

いう制約があります。カナダやドイツでは、10年視鏡を用いて涙道の診察をする試みを始めており、すでに多くの成果を上げています。この方法が一般化されれば、レントゲン設備がなくても涙道の正確な診断が出来るようになり、多くの涙目患者様の問題解決への糸口となるに違いありません。

患者様の数は相当なものであるはずですが、涙道の状態を調べるには、まず涙管通水テストという簡単な方法で検査をします。この方法は痛くないのが普通で、どこの眼科でも手軽に検査を受けることが出来ますが、この方法での検査結果は

判断の仕方が意外に難しく、正確な診断にはレントゲン検査が必要となります。しかし、レントゲン検査は、総合病院の眼科か、個人の眼科医院でも涙目を専門的に診療している一部の病院でしか受けることが出来ないと

いう制約があります。カナダやドイツでは、10年視鏡を用いて涙道の診察をする試みを始めており、すでに多くの成果を上げています。この方法が一般化されれば、レントゲン設備がなくても涙道の正確な診断が出来るようになり、多くの涙目患者様の問題解決への糸口となるに違いありません。